

【試合結果】

女子 決勝トーナメント		3位決定戦																
日時	平成30年1月7日(日)		11:40 ~															
会場	伊達市総合体育館 Bコート																	
結果	札幌東月寒 札幌	<table border="0"> <tr><td>14</td><td>—</td><td>9</td></tr> <tr><td>8</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>15</td><td>—</td><td>6</td></tr> <tr><td>7</td><td>—</td><td>6</td></tr> <tr><td></td><td>OT</td><td></td></tr> </table>	14	—	9	8	—	12	15	—	6	7	—	6		OT		帯広翔陽 帯広
	14	—	9															
8	—	12																
15	—	6																
7	—	6																
	OT																	
	44	33																
審判	主審 久朗津 義晃	副審 清水 圭・相良 典子																

第32回北海道中学校バスケットボール新人大会



【ボックススコア】

札幌東月寒		札幌						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	満井 桃花	×	12	1	4	1	3	2
5	菊地 彩良	×	5	0	2	1	1	0
6	篠田 莉音	×	14	2	3	2	9	2
7	高橋 瑠奈	×	8	0	4	0	1	1
8	稲船 遥香	×	5	0	2	1	5	1
9	齊藤 彩華	DNP						
10	金丸 七海	DNP						
11	荒川 璃子	DNP						
12	岡 優芽	DNP						
13	堤 彩乃	DNP						
14	松本 彩良	DNP						
15	高橋 仁菜	DNP						
16								
17								
18								
HC	高柳 裕一							
合計			44	3	15	5	19	6

帯広翔陽		帯広						
No.	選手氏名	出場	得点	3P	2P	FT	R	F
4	石野 さくら	×	5	1	1	0	2	4
5	嶋 望早	×	0	0	0	0	2	2
6	須田 香音	DNP						
7	後藤 あかり	×	10	0	5	0	9	0
8	佐藤 千広	/	6	0	3	0	0	2
9	丸山 ほのか	DNP						
10	本間 菜々実	DNP						
11	新保 瑠空	×	0	0	0	0	1	0
12	青田 礼衣	DNP						
13	山崎 莉子	DNP						
14	市橋 令菜	/	2	0	1	0	1	1
15	太田 彩巴	DNP						
16	金尾 美青	DNP						
17	橋本 彩永	/	4	0	2	0	2	0
18	野村 美桜	×	6	0	3	0	3	0
HC	川岸 仁							
合計			33	1	15	0	20	9

出場 ×:スターター /:途中出場 DNP:出場なし
 得点 3P:3ポイントシュート 2P:2ポイントシュート FT:フリースロー

【戦評】

昨日と同じ顔合わせとなった女子3位決定戦。帯広翔陽#4,5,7,11,18、東月寒#4,5,6,7,8がスタート。
 1Q:両チームともハーフコートマンツーマンで守る。東月寒はハイ・ローポストを有効に使いながら攻める。対する帯広翔陽は#7のドライブを中心にオフェンスを構成。口火を切ったのは東月寒#4の3P。帯広翔陽も#7のドライブからの得点で対抗。東月寒は#6,8のフリースローやレイアップシュートで加点し、残り3分で9-2とリードを広げる。さらに#6の3Pが決まり、点差を10点とする。帯広翔陽も#4の3Pで食らいつく。さらに、終了間際、帯広翔陽#7がスティールから速攻で得点し14-9で1Q終了。
 2Q:先に得点したのは帯広翔陽。#17が勢いのあるドライブからレイアップが決まる。インサイドを#17,18の一年生コンビにしたことでペイント付近のスペースが生まれ、効果的なオフェンスを展開。3分間で点差を一気に1点に詰め寄る。東月寒はディフェンスをオールコートに変え、速い展開に持ち込む。しかし、肝心のシュートが決まらず、流れを掴みきれない。もう一度流れを引き込みたい東月寒が残り1分でタイムアウトを要求。その後も膠着状態が続き22-21で前半を終える。
 3Q:東月寒がスクリーンを有効に使い、立て続けに得点する。さらにオールコートでプレッシャーを強め、自チームに流れを引き込み、開始3分で30-23とする。流れを変えたい帯広翔陽は#5から#17にメンバーチェンジ。残り2分で32-27と一進一退の攻防を展開。終了間際#6の3Pで37-27とし、3Qが終了。
 4Q:開始2分、両チーム思うようにオフェンスを展開できない。そんな中、帯広翔陽が後半1回目のタイムアウトを要求。タイムアウト明け、帯広翔陽#5,7がドライブで仕掛けるも、シュートを決めきれない。ファールが立て込み始めた帯広翔陽は2回目のタイムアウト。帯広翔陽は#8をコートに送り、スマールラインナップで勝負をかける。その#8がドライブから2連続得点し42-31。しかし、その後が続かない。逆に東月寒#4の巧みなドリブルによりゲームをコントロールされ、残り1分半で帯広翔陽3回目のタイムアウト。帯広翔陽は最後まで果敢に攻めるも、終盤、しっかりとコントロールした東月寒が44-33で勝利した。